

情報提供



独立行政法人

国立特別支援教育総合研究所 病弱班 土屋忠之（班長）

病弱班 研究員

国立特別支援教育総合研究所

病弱班メンバー

土屋 忠之（班長）

大崎 博史（副班長）

嶋野 隆文

内容

- 1. 特総研の病弱教育に関する取組
- 2. 病気のある児童生徒の教育的ニーズ
- 3. 特別支援学校（病弱）のセンター的機能
- 4. 自立活動の指導

1. 特総研の病弱教育に関する取組

研究班活動計画（予定）【病弱班】

第5期中期目標期間に実施する研究の方向性と主な研究課題
 病気のある児童生徒の**教育的ニーズ**に基づく**小・中学校等**における支援に関する研究活動
 - 特別支援学校（病弱）の**センター的機能**の活用 -

第5期中期目標期間				
令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
①小・中学校等におけるこころの病気のある児童生徒の教育的ニーズに基づく支援に関する研究活動 -特別支援学校（病弱）のセンター的機能による支援との連携-	②病気のある児童生徒の教育的ニーズに基づく「こころの病気の子ども支援ツール-小・中学校等の充実-」の開発に関する研究活動	③「こころの病気の子ども支援ツール-小・中学校等の充実-」（仮）の活用及び普及に関する研究活動		
	④慢性疾患等のある児童生徒の教育的ニーズに基づく小・中学校への支援に関する研究活動 -特別支援学校（病弱）のセンター的機能による支援-	⑤病気のある児童生徒の教育的ニーズに基づく「からだの病気の子ども支援-小・中学校等の充実-」に関する研究活動 -特別支援学校（病弱）の特別教育コーディネーター等の取組について-		⑥子と
⑦全国病弱虚弱教育研究連盟が実施する、児童生徒の病類に関する全国調査への協力		⑦全国病弱虚弱教育研究連盟が実施する、児童生徒の病類に関する全国調査データの分類と分析		⑦全連盟

こころの
病気

からだの
病気

病類調査

National Institute of Special Needs Education

日本特殊教育学会 学術集会自主シンポジウム 令和5年8月25日（金）～27日（日）筑波大学

○病気のある児童生徒の**教育的ニーズ**に基づく「からだの病気の子ども支援—小中学校等の充実—」に関する研究活動
 —特別支援学校（病弱）の**特別支援教育コーディネーター**等の取組について—

* 病気療養中の**高校生**への継続的な学習支援の現状と課題2
 ⇒ **第2回研究協議会**にて情報提供

* **こころの病気**（精神疾患・心身症）のある児童生徒への**Co-MaMe**を活用した**自立活動**における指導
 —全国病弱虚弱教育研究連盟及び学校での取り組みから—

○は病弱班の研究班活動、*は科学研究費助成事業より

National Institute of Special Needs Education

特別支援教育専門研修（病弱教育専修プログラム）

<講義の例>

- **ICT、遠隔**を含めた講義
 - ・ 特別支援教育におけるICT、ATの活用
 - ・ 病弱教育におけるICT及びAT活用の実際
 - ・ 遠隔教育による病気のある子供への指導と支援
- **地域支援**を含めた講義
 - ・ 地域における病気のある子供の支援の実際
 - ・ 特別支援学校（病弱）におけるセンター的機能の実際
 - ・ 小・中学校における病弱教育の推進
 - ・ 病気のある子供の復学支援
 - ・ 小・中学校に設置された病弱・身体虚弱特別支援学級の課題への対応
- **高校生支援**を含めた講義
 - ・ 高等学校における病弱教育の現状と課題
 - ・ 中学校、高等学校における心の病気のある生徒への合理的配慮と支援

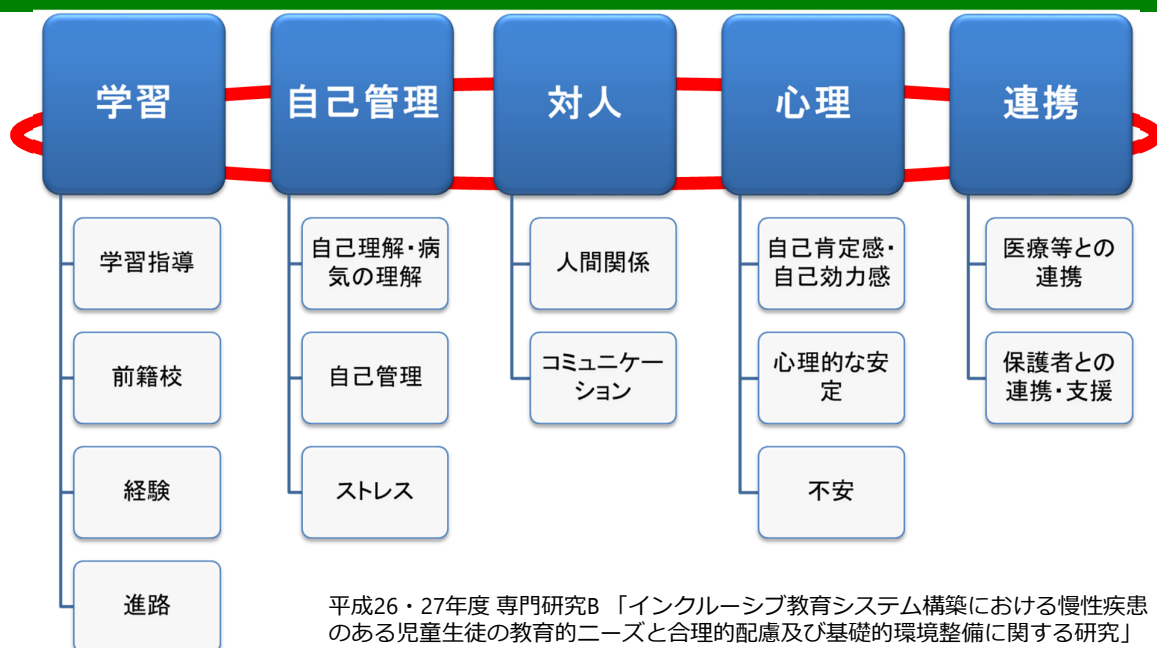
特別支援教育専門研修（病弱教育専修プログラム）

- 各障害種別の指導者（**スクールリーダー**）の専門性向上を目的とする
- **特別支援学校教員**においては**地域の中核**となるようその専門性の向上を図る
- 令和5年度専門研修（病弱教育専修プログラム）研修員 **6名**
- 令和6年度は1月～3月（6週間オンライン、3週間集合・宿泊）にて実施予定

素晴らしい講師による充実した研修を準備しておりますので、ぜひ派遣等をよろしくお願ひします。

2. 病気のある児童生徒の 教育的ニーズ

病気の子どもの教育的ニーズ



平成26・27年度 専門研究B 「インクルーシブ教育システム構築における慢性疾患のある児童生徒の教育的ニーズと合理的配慮及び基礎的環境整備に関する研究」

https://www.nise.go.jp/nc/each_obstacle/sickness?category=study からダウンロードできます

教育的ニーズ		支援・配慮の視点
カテゴリー	サブカテゴリー	
学習	学習指導	学習環境の整備、学習状況の把握、指導時間の確保、指導体制の工夫、指導内容の精選、学習進度の調整、体調や心理面への配慮、教材・教具の工夫、授業展開の工夫、教師の声掛け
	前籍校	前籍校の担任との連携、交流活動の実施
	経験	経験の機会の設定、語彙の拡大
	進路	進路支援
自己管理	自己理解・病気の理解	病気や治療の理解の促進、自己理解の促進、情報収集・共有
	自己管理	生活上の制限の理解、自己管理支援、基本的な生活習慣の確立、関係者間の情報共有
	ストレス	ストレスマネジメント、教師の関わり、関係者との連携
対人	人間関係	集団参加の場の設定、集団活動への参加方法の工夫、教師の役割、家族との関係
	コミュニケーション	コミュニケーションの場の設定、必要な支援の要求、社会性の育成、教師の態度・関わり方
心理	自己肯定感・自己効力感	成功体験や賞賛される経験を積み重ねる機会の設定、教師の声掛け
	心理的な安定	感情のコントロール、興味・関心のある活動の設定、受容的な関わり、授業等での工夫
	不安	不安の軽減、家庭や医療機関との連携
連携	医療等との連携	医療等との連携
	保護者との連携・支援	保護者との連携、ストレスのケア

11 https://www.nise.go.jp/nc/each_obstacle/sickness?category=study からダウンロードできます

病気の子どもの事例検討シート

病気の子どもの事例検討シート(教育的ニーズ、支援・配慮)		
児童生徒氏名(学年):		記入者:
		記入日:
項目	教育的ニーズ 内 容	実施可能な支援・配慮 (誰が、いつ、どこで)
学習面	病気・障害に関すること	
	<input type="checkbox"/> 学習指導	
	<input type="checkbox"/> 前籍校(地元の学校)	
	<input type="checkbox"/> 経験	
自己管理	<input type="checkbox"/> 進路	
	<input type="checkbox"/> 自己理解・病気の理解	
	<input type="checkbox"/> 自己管理	
対人面	<input type="checkbox"/> ストレス	
	<input type="checkbox"/> 人間関係・集団活動	
	<input type="checkbox"/> コミュニケーション	
	<input type="checkbox"/> 自己肯定感・自己効力感	
心理面	<input type="checkbox"/> 心理的な安定	
	<input type="checkbox"/> 不安	
連携	<input type="checkbox"/> 医療等との連携	
	<input type="checkbox"/> 保護者との連携・支援	
	<input type="checkbox"/> 施設設備	
	その他	

https://www.nise.go.jp/nc/each_obstacle/sickness?category=study からダウンロードできます

ICT見える化シート

群馬県立赤城特別支援学校

児童生徒イニシャル（学年）

記入者

記入日：

ICTの教育的ニーズ

項目

内容

見える化シート

- ① 学習指導
- ② 前籍校
- ③ 経験
- ④ 人間関係
- ⑤ コミュニケーション
- ⑥ 自己肯定感・自己効力感
- ⑦ 心理的な安定
- ⑧ 不安

共通の指標

見える化



共通理解

ICT見える化シート (群馬県立赤城特別支援学校)

	項目	内容	実践例へのリンク
学習面	① 学習指導	<ul style="list-style-type: none"> 共通点としては、Googleストリートビューを使った実践が多く、病棟内からなかなか出られない児童生徒にとっては体験を補う機会になる可能性がある。 実践が行えないような教場で実践映像を見ることで体験を補う助けになったり、歴史や道徳にも面白い映像も揃っていたりするので、NHKforSchoolの積極的な活用していきたい。 教科書に付属しているQRコードが非常に便利。教科書会社が用意しているだけのことはあるので、これも時勢が許す限り活用していくといいたい。また、これを利用できるのはタブレットが各教室に配られたからであって、設備を完全に整えていくことがこれからの学校現場では一層重要になっていくと考えられる。 今後は他教場の生徒と、理科の実験結果や、道徳の考え方、国語の意見などをとりまとめて、見られるようにしておく。どうしても人数が少なくなりがちな中で、他者の意見を取り込むいい機会になると思う。 	①学習指導
	② 前籍校	<ul style="list-style-type: none"> 本来は支援会議は対面がベターではある。コロナ下でもありICTの良さもある。 医師は、忙しいがICT活用によって支援会議に参加しやすくなった。上手に活用する必要がある。 支援会議はICT活用や対面の会合を組み合わせていくとよい。 交流は、復学支援になる。 Orihimeを使った交流は新鮮であり、うまく活用できればよい。 教員のやりたいが先行しないように。児童生徒がやりたいこと、児童生徒の気持ちを大切にICTを活用する。 子どものニーズにあわせて、ICTを活用していく。 Google Meetは、こちらが招待する（招待メールを出す）ことで、相手校とつながりやすくなった。 	②前籍校
	③ 経験	<p>共通点 校外施設見学での活用（オンラインでの見学、事前事後での活用、当日の撮影）、生活経験の少なさを補う（面接体験、たとえば、天気の確認、調理実習、理科の実験など）。</p> <p>課題 リアリティーの乏しさやICT機器に制限のある場合があり、どうすればよいか？</p>	③経験
対人面	④ 人間関係・集団活動	<ul style="list-style-type: none"> ①人間関係 <ul style="list-style-type: none"> 新しい出会いへの使用。（騎学校との交流・他県の特別支援学校との交流） 長期入院している児童生徒に対して、安心感につながる支援ができる。（前籍校の担任との交流。新年度の新しい先生の紹介） ②回数を増やしていくことで、人間関係が深まる。（授業でのレクリエーション活動） ③集団参加 <ul style="list-style-type: none"> 企画・運営を子供主体で、ICTを手段として使用する。（プロロを使った校内大会） 集団の中で自分の役割を果たす手段（児童生徒会活動の話し合い） 	④人間関係・集団活動
	⑤ コミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> ◎実践例 <ul style="list-style-type: none"> プログラミングロボット・プロロを用いた交流。他教場の生徒とmeetで相撲対決を行った。事前学習で顔合わせを済ませ、実際の対決の時には楽しそうな様子が見られた。 「デジタル紙芝居」で保護者への感謝を伝えた。iPadの「Pages」というアプリケーションでおこなうことができる。これは保護者への感謝だけでなく、前籍校の友達に送ることもできるので汎用性が高い。 メールを使った交流。これは顔を合わせなくてもいいため、気軽に交流ができる。附属院内教室中学期の実験発表では、他県とメールを通して交流し生徒が楽しんで取り組んでいるという話があり、参考にした。 jambordやmeetを使った学習や交流も、コミュニケーションの面で活用していきたい。 ◎課題、今後行っていきたいこと <ul style="list-style-type: none"> セラピーロボを使ったコミュニケーション。 	⑤コミュニケーション

精神疾患及び心身症のある児童生徒の教育ニーズ (Co-MaMeより)

・教育的ニーズ 6カテゴリー 40項目

領域	項目
A.心理	A1 不安・悩み、A2 感情のコントロール、A3 こだわり、A4 意欲・気力 A5 自己理解、A6 気持ちの表現、A7 情緒の安定、A8 気分の変動、A9 自信
B.社会性	B1 集団活動、B2 社会のルール理解、B3 コミュニケーションスキル B4 同年代との関係、B5 家族との関係、B6 教師との関係 B7 異性との関係、B8 他者への信頼、B9 他者への相談、B10 他者理解
C.学習	C1 学習状況、C2 処理能力、C3 聞き取り・理解力、C4 読み・書き C5 記憶力、C6 注意・集中、C7 学習への意識、C8 経験
D.身体	D1 身体症状・体調、D2 巧緻性、D3 動作・体力、D4 多動性、D5 感覚過敏
E.学校生活	E1 見通し、E2 物の管理、E3 登校・入室への抵抗感
F.自己管理	F1 睡眠・生活リズム、F2 食事、F3 服薬、F4 病気の理解、F5 ストレスへの対処

https://www.nise.go.jp/nc/each_obstacle/sickness?category=study からダウンロードできます

15

National Institute of Special Needs Education

連続性のある 多相的多階層支援

Continuous Multiphase and Multistage educational support

Co-MaMe:こまめ

National Institute of Special Needs Education



16

National Institute of Special Needs Education

アセスメントシート (Co-MaMeより)

① 令和 年 月 日 ② 令和 年 月 日

アセスメントシート

- (1) Co-MaMe を活用して支援を行うことが適当だと思われる児童生徒を一人決めます。
 (2) 対象児童生徒に当てはまる教育ニーズについて、チェック欄の①の項目に○、特に重要と思われる項目は◎(3つ程度)をします(②の欄は数ヶ月後に児童生徒の変容を把握する時等に使用します)。

A 心理	チェック	
	①	②
A1 不安・悩み (不安が強い、悩みが強から離れない)		
A2 感情のコントロール (気持ちを抑えられない、すぐに怒ってしまう)		
A3 こだわり (一つのことこだわると他のことが考えられない)		
A4 意欲・気力 (目標がもてない、やる気がおきない)		
A5 自己理解 (何が正しいか自分でも分からない)		
A6 気持ちの表現 (気持ちを言葉・文字に表せない)		
A7 情緒の安定 (嫌なことを思い出してしまう、イライラする)		
A8 気分の変動 (気分が落ち着きがある)		
A9 自信 (自分に自信がない、自己肯定感が低い)		

B 社会性	チェック	
	①	②
B1 集団活動 (集団の中に入ると疲れる、ルールに従えない)		
B2 社会のルール理解 (学校や社会の規則を守れない、自分で変更する)		
B3 コミュニケーションスキル (あいづちがうてない、人の話が聞けない)		
B4 同年代との関係 (相手のことを考えた行動ができずトラブルになる)		
B5 家族との関係 (家族との関係がうまくいかない)		
B6 教師との関係 (教師を信用しない、教師とトラブル)		
B7 異性との関係 (異性との関係がうまくいかない)		
B8 他者への信頼 (人が信用できない、人と関わりたい)		
B9 他者への相談 (困った時に相談できない)		
B10 他者理解 (表情や態度から気持ちを読み取れない)		

C 学習	チェック	
	①	②
C1 学習状況 (勉強の仕方が分からない)		
C2 処理能力 (書きながら聞くなど、2つの作業を同時に行えない)		
C3 聞き取り・理解力 (話を聞いても理解できない、指示内容が分からない)		
C4 読み・書き (文章を読むのが苦手、漢字を正しく書けない)		
C5 記憶力 (すぐに忘れてしまう)		
C6 注意・集中 (集中が続かない、気が散って集中できない)		
C7 学習への意識 (嫌いな教科に出たくない)		
C8 経験 (生活経験が低い)		

D 身体	チェック	
	①	②
D1 身体症状・体調 (お腹や頭が痛い、過呼吸や嘔吐がおこる)		
D2 巧緻性 (手先を使って操作することが指示通りできない)		
D3 動作・体力 (体力がない、動きがはやくできない)		
D4 多動性 (じっとしてられない、待てない)		
D5 感覚過敏 (におい・音・触覚、大きな音が嫌)		

E 学校生活	チェック	
	①	②
E1 見通し (予定の変更が受け入れられない)		
E2 物の管理 (忘れ物が多い、物をなくしてしまう)		
E3 登校・入室への抵抗感 (学校に行きたくない、教室に入れない)		

F 自己管理	チェック	
	①	②
F1 睡眠・生活リズム (朝起きられず遅刻してしまうことが多い)		
F2 食事 (給食が食べられない、外食ができない)		
F3 服薬 (薬が手配できない、薬の管理が面倒)		
F4 病気の理解 (自分自身の病状を理解していない)		
F5 ストレスへの対処 (ストレスへの対処、苦手なことから逃れたい)		

https://www.nise.go.jp/n/c/each_obstacle/sicknes/category=study からダウンロードできます

National Institute of Special Needs Education

全病連Webサイトより

令和2年度・令和3年度

精神疾患等のこころの病気のある
児童生徒の指導と支援の事例集VI

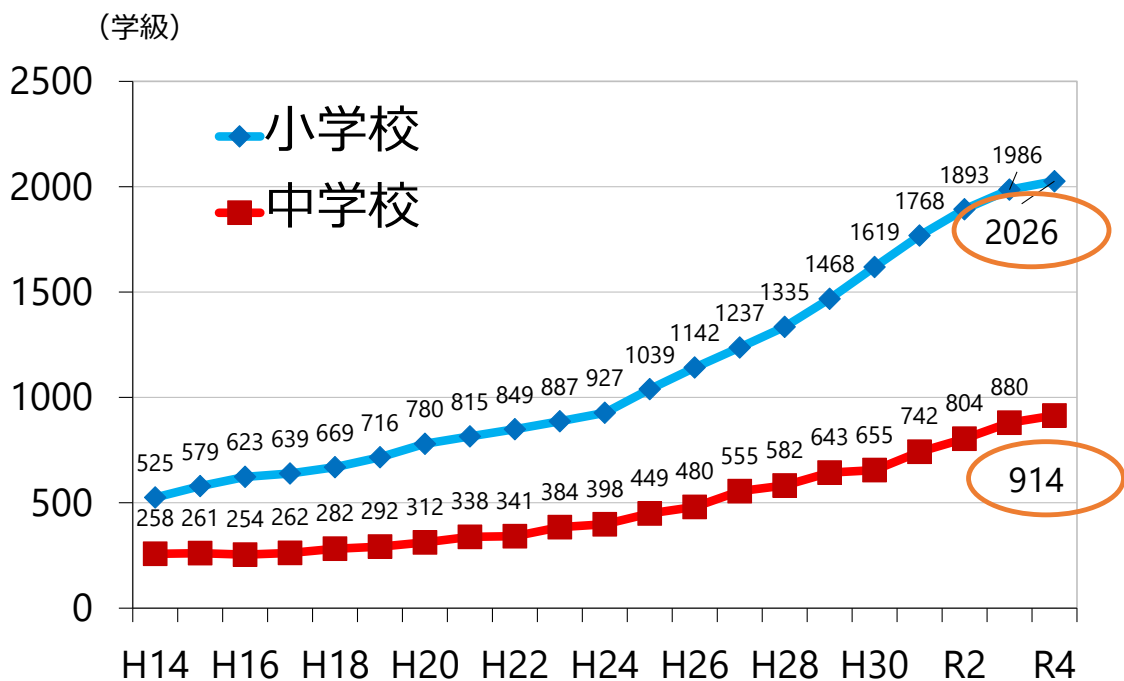
「Co-MaMe」を活用した教育支援



全国病弱虚弱教育研究連盟
心身症等教育研究委員会

3. 特別支援学校（病弱） のセンター的機能

小学校・中学校の病弱・身体虚弱特別支援学級数の推移 文科省「学校基本調査（令和4年度）」（2022）



児童生徒の病類に関する分析結果

(令和3年度全病連病類調査より)

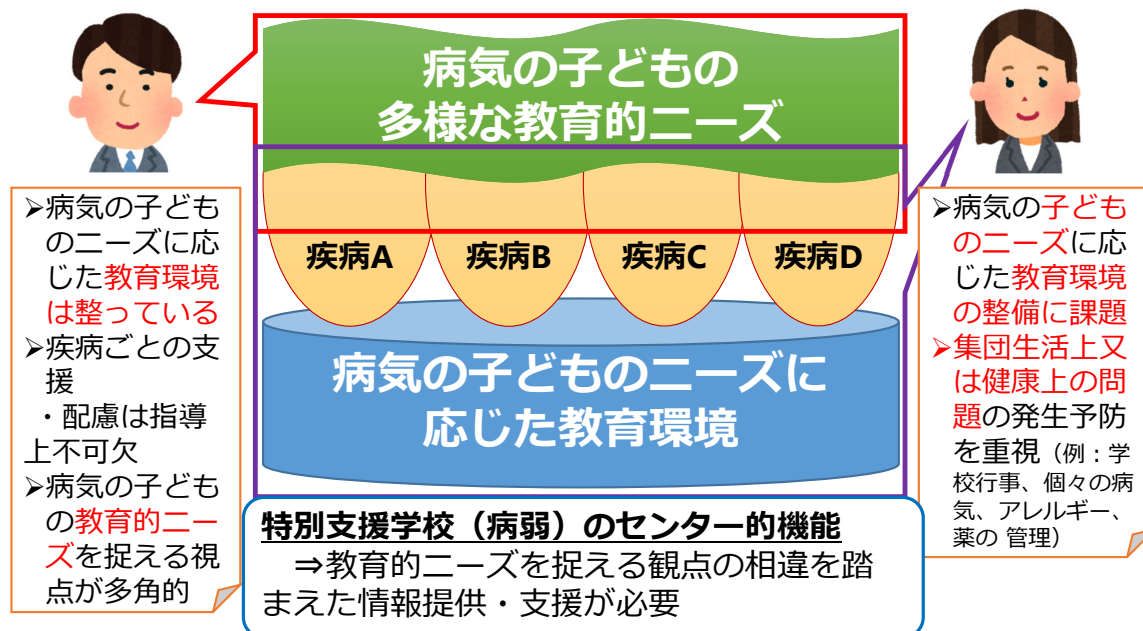
	小児がん	慢性心疾患	脳・神経・筋疾患	精神疾患及び心身症
特別支援学校	248	124	524	1,317
特別支援学校 (訪問)	119	14	242	111
特別支援学級	193	744	1,018	434
特別支援学級 (院内)	157	10	5	114

(人)

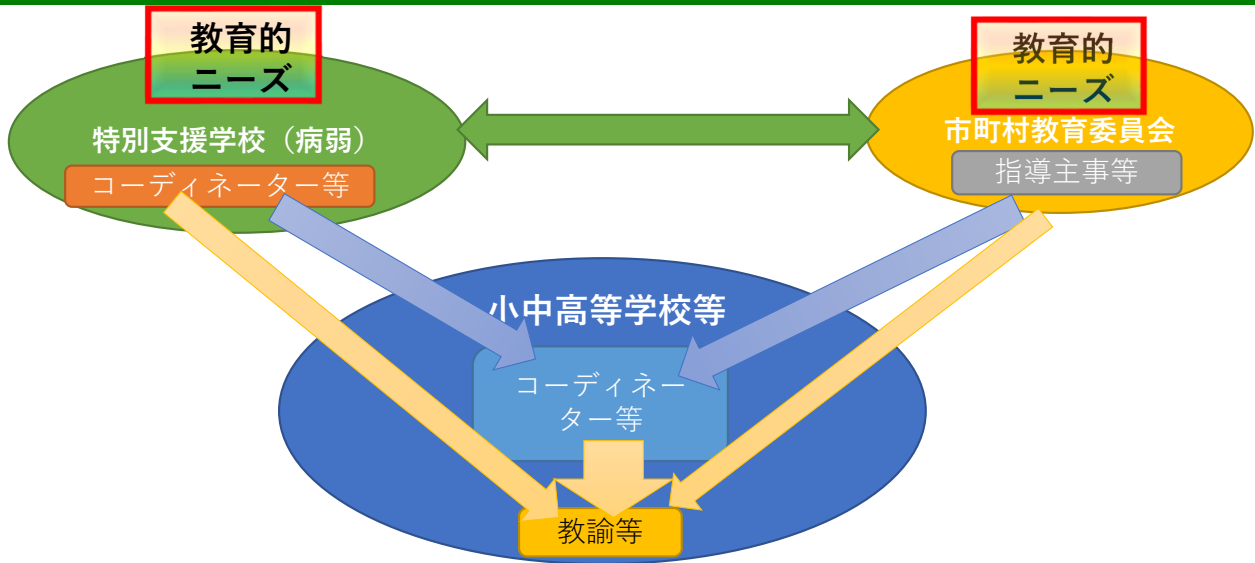
学校種による教育的ニーズの捉え方の相違

特別支援学校 (病弱)

小・中学校等



病気のある児童生徒の教育的ニーズに基づく「こころの病気の子ども支援-小・中学校等の充実-」



4. 自立活動の指導

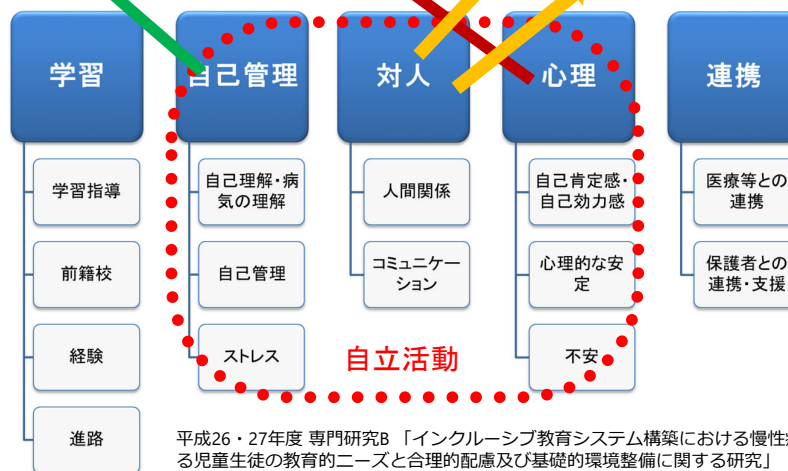
小学校学習指導要領・中学校学習指導要領

- 小学校学習指導要領又は中学校学習指導要領では、特別支援学級において特別の教育課程を編成する場合に、「障害による学習上又は生活上の困難を克服し自立を図るため、特別支援学校小学部・中学部学習指導要領第7章に示す**自立活動**を取り入れること。」と示されている（特別支援学校学習指導要領解説自立活動編より）。
- 令和3年2月に文部科学省から発出された「新しい時代の特別支援教育の在り方に関する有識者会議 報告」において、**小・中学校の特別支援学級や通級による指導**を担当する教師に求められる専門性として「**自立活動を実践する力**」等が挙げられている。

特別支援学校学習指導要領解説 自立活動編（小学部・中学部） 平成30年3月発行

第7章 自立活動 第2 内容

- 1 健康の保持 2 心理的な安定 3 人間関係の形成 4 環境の把握
5 身体の動き 6 コミュニケーション



精神疾患及び心身症のある児童生徒の教育ニーズ (特総研)

・教育的ニーズ: 6カテゴリー、40項目

領域	項目
A.心理	A1 不安・悩み,A2 感情のコントロール,A3 こだわり,A4 意欲・気力 A5 自己理解,A6 気持ちの表現,A7 情緒の安定,A8 気分の変動,A9 自信
B.社会性	B1 集団活動,B2 社会のルールの理解,B3 コミュニケーションスキル B4 同年代との関係,B5 家族との関係,B6 教師との関係 B7 異性との関係,B8 他者への信頼,B9 他者への相談,B10 他者理解
C.学習	C1 学習状況,C2 処理能力,C3 聞き取り・理解力,C4 読み・書き C5 記憶力,C6 注意・集中力,C7 学習への意識,C8 経験
D.身体	D1 身体症状・体調,D2 巧緻性,D3 動作・体力,D4 多動性,D5 感覚過敏
E.学校生活	E1 見通し,E2 物の管理,E3 登校・入室への抵抗感
F.自己管理	F1 睡眠・生活リズム,F2 食事,F3 服薬,F4 病気の理解,F5 ストレスへの対処

1 健康の保持 2 心理的な安定 3 人間関係の形成 4 環境の把握
5 身体の動き 6 コミュニケーション

27

National Institute of Special Needs Education

ご清聴いただき、ありがとうございました

